

## 2013 年度 小委員会活動成果報告

(2014 年 1 月 10 日作成)

小委員会名	構造物のレジリエンス評価小委員会	
所属本委員会 (所属運営委員会)	構造委員会 (応用力学運営委員会)	
設置期間	2013 年 4 月 ～ 2017 年 3 月	
設置目的 各年度活動計画 (箇条書き)	想定外の外乱に対してもよりレジリエントで高い安全性を確保する構造設計について考える。 ・初年度：構造物のレジリエンスの定量評価について調査を行う ・2年度：構造物のレジリエンスの定量評価について資料整理を行う ・3年度：構造物のレジリエンスの定量評価について取りまとめを行う ・4年度：大会 PD, シンポジウム等において調査結果を公表	
委員構成 (委員名(所属))	委員公募の有無：無	
	主査：竹脇 出 (京都大学) 幹事：高田豊文 (滋賀県立大学), 山川 誠 (京都大学) 委員：浅岡泰彦 (大林組), 朝川 剛 (日建設計), 磯部大吾郎 (筑波大学), 伊藤拓海 (東京理科大学), 寒野善博 (東京大学), 曾我部博之 (愛知工業大学), 趙衍剛 (神奈川大学), 福田隆介 (鹿島建設), 中村尚弘 (竹中工務店)	
設置 WG (WG 名：目的)		
2013 年度予算	70,000 円	ホームページ公開の有無：有 委員会 HP アドレス： <a href="http://news-sv.aij.or.jp/kouzou/s37/index.htm">http://news-sv.aij.or.jp/kouzou/s37/index.htm</a>

項 目	自己評価
委員会開催数	2 回 (年度内計画を含む) メールによる審議多数回
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	1. 『応用力学シリーズ 12：建築構造設計における冗長性とロバスト性』
催し物 (シンポジウム・セミナー等) * 能力開発支援事業委員会承認企画	1. 建築構造設計における冗長性とロバスト性シンポジウム 参加者数 59 名 『同名資料』
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	1. 『応用力学シリーズ 12：建築構造設計における冗長性とロバスト性』(2013 年 6 月刊行) に関するシンポジウムを開催し、活発な議論を行った。 2. レジリエンスの定義および定量化について議論を行い、理解を深めた。
委員会活動の問題点・課題	1. 冗長性・ロバスト性・レジリエンスについての用語の整理をさらに進めたい。また、これらの関連性や定量化についても議論を進めたい。